

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 成田良治
幹事 鷺野義明
会報委員長 杉浦比佐夫
小山雅弘

No. 39

ロータリーを高めよ！
思いを尽くし熱意を尽くし！

1990~91年度 RI会長 パウロ V.C. コスタ

第429回例会 平成3年4月16日(火) 晴

◇ “奉仕の理想”

小坂井 盛雄君、中山 信夫君、杉山 貞男君
和田 正敏君 結婚記念日祝い。

◇出席報告

会員 67(66)名 出席 51名
出席率 77.27%
前回 4月9日 (修正出席率) 98.48%

◇鷺野幹事報告

1. 第258地区東京本郷RC認証状伝達式(5/8)のご案内が来て居りますので、参加希望の方は、事務局までお申し込み下さい。
2. ロータリーの友4月号が来て居りますのでお帰りにお持ち下さい。
3. 事務局員の羽場洋子さんが、4月19日付けで退職されますので新しく岩田和子さんに4月1日より入って頂きました。

◇ビジター紹介 7名

◇お誕生日祝福

永井君(4/10)、江崎君(4/16)、
永井夫人(4/16)、足立夫人(4/16)、
菊池夫人(4/21)

◇一宮中央RCより認証状伝達式参加のお願い

私ども一宮中央RCは、会員62名(内女性会員3名)、平均年齢46歳という夜間例会のクラブで、平成2年10月31日に創立総会を行い、11月16日RIに正式加盟しました。
つきましては、平成3年5月19日(日)に認証状伝達式を行いますので、是非ご出席下さるよう当クラブの女性会員がキャンペーンガールとして各クラブを訪問しております。
よろしくお願ひします。

◇ニコボックス

一宮中央RC 森 栄君、森 諦紀君、
王腰 昌孝君 初めてメーキャップさせて頂きました。チャーターナイト宜しくお願ひします。
永井 正義君 ホームクラブ長らくご無沙汰しました。3月のゴルフ会で優勝しました。誕生日祝い。夫人誕生日祝い。
鈴木 理之君 東海学園O.B.の皆さん有難度うございました。
谷口 暢宏君 食べ歩き会では松居さん、小山さん、お世話になりました。
小林 明君 4/13に満60歳になりました。
今枝 秀夫君 4/13に次男が目出度く結婚ゴールインしました。
松居 敬二君 ホームクラブご無沙汰しました。
鈴木 正男君 申し訳ありませんが早退させて頂きます。
江崎 民夫君 誕生日祝い。
足立 一成君、菊池 昭元君 夫人誕生日祝い。

◇バナー紹介

COPENHAGEN RC 黒野 貞夫君

◇成田会長挨拶

東京六大学野球

先日の土曜日(13日)何気なくテレビを見てみると、東大対立教の野球試合を放映していた。最初はたいして気にとめずに見ていましたが、途中8回で逆転、サー大変!でした。東大が勝つと悲願の200勝達成、しかも71試

合ぶりの勝利ですから、スタンドがわき立っていました。この時の立教もまた大変なものでした。負けてはならじと次々と代打を送りだして、何とか歴史に残る汚名、珍記録に名前を残したくないという気迫がテレビを通して伝わってきたほどでした。結果は4対1で東大の逆転勝ちでした。

おかしなものであつた時は、東大が勝てばいい、勝たしたいと思つておまして、この機会をのがしてはおそらく80連敗100連敗と続くように思われて、弱いものの味方になっておりました。

考えますに、東大が勝つたという事は犬が人にかみついても記事にならないが、人が犬にかみつくと記事になる様に、次の日の新聞等には一面この記事が載つておりました。

プロ野球ならとっくにつぶれてなくなるであろう70連敗、しかも7年間勝つたことのない東大野球部、東京六大学の名物ともいわれる一弱の東大ですが、東京六大学野球、あくまでも学生野球ですから壘リーグ位こんな方法の野球があつてもよいのではないかとつくづく思つた次第です。

~~~~~ 地区大会報告 ~~~~~

4月6日(土)大会本会議 第1日

◇秋山会長エレクト

世界社会奉仕タイ訪問団報告

地区大会第一日目のロータリーフォーラムでR I 276地区の世界社会奉仕委員会(WCS)が昨年行ったタイ国視察旅行(11月29日~12月3日)の報告が行われました。視察団一行32名。千種RCから安藤君がご夫婦で参加されました。報告会は視察団の5日間を収録したビデオ放映からはじまりました。訪問先の336地区RCの様子、老人ホーム、小中学校の状況等が映像で紹介され、タイの人々の喜びを目の当たりにして大変感銘をうけました。つづいて安藤WCS委員長の報告(先日千種RCで卓話をお願いしたときの内容と同じなので省略)。そして参加各クラブから7名の方々の視察旅行体験談と感想意見を混ぜた報告がなされました。ここに我がクラブの安藤君のご報告をご紹介します。

*安藤銀之助社会奉仕委員長

国際奉仕委員として276地区委員会議に出席し、色々な先輩諸氏のお話及びご指導を受け、ある程度WCS活動の理解が出来たのですが、過去10年間の自分のロータリー生活の反省と、今後のあり方考え体験する為、家内を同行させ参加したのであります。

チェンマイでの盲学校、少年院、ランフーン地区の小中学校、ファング地区の老人ホーム、小学校等言葉は分からなくても、「目」「動作」等で我々に感謝している事を痛感致しました。又フィリピンでは、政治的な問題点がおおく、理解し難い面もありましたが、ロータリアンとして信じて行くことが大切ではないでしょうか。

今回の奉仕活動を体験し、たとえ小さくても継続する事が大切と考え当クラブとして次期国際奉仕委員に十分説明をして、出来れば相手クラブを決めて、タイ国だけではなくフィリピンにも奉仕活動をする様指導し、又機会があれば参加したいと思います。

当クラブの米山奨学生、ソムサク君とも再会し、久保田鉄工の合併会社に就職し、工場での品質管理責任者として活躍して、今回の活動の通訳をしてくれた事、又本人が来年5月新婚旅行に名古屋を選んでくれた事等思い出深い旅行でした。

◇西川社会奉仕副委員長

われらの天体・地球の保全

- 1 上原昌平(半田) オゾン層の破壊、炭酸ガスによる温度上昇、酸性雨による大気汚染は人類の生存を脅かしている。過剰消費を抑え、シンプルな生活、資源のリサイクルを考えなければならない。
- 2 加藤直義(瑞穂) 産業廃水、家庭廃水を含めて海の保全を考えるべきだ。海は地球の最も大きな資源である。
- 3 小川宏嗣(犬山) 熱帯雨林の消失、焼畑耕作、酸性雨により森林が消え砂漠化する。やれることから手をつけるのがよいが、まず環境保全委員会を社会奉仕委員会から切り離してやることを提案したい
- 4 平山哲明(津島) 土は生き物であり、地上の生命の源。土は薄く地上を覆うのみである。土壌の酷使は、土の死を招く。痛んだ土への妙薬は植樹による。地力の回復である。
- 5 杉浦皓(岡崎) 野鳥観察の経験から動物

が減少していくのを体験している。リゾート開発、都市美化をやめよう。「消費は美德」は許されない。

- 6 和仁康祐(豊橋) 混ぜればゴミ分ければ資源、古紙はオフィスの森林だ。
- 7 山田達樹(守山) 環境問題はロータリアンのマナーを問う問題である。
- 8 奥谷コーディネーター 公害は企業のモラルの問題だ。環境アセスメントをやるべきである。生産より人間優先で企業が成り立つ。

4月7日(日)大会本会議 第2日

◇大谷クラブ奉仕委員長

午前9時点鐘、国歌、奉仕の理想、物故者会員追悼とつづき、宮地大会委員長の開会のことばから会が進められた。新クラブの紹介では、中村繁夫ガバナーから、田原パシフィック、一宮中央、刈谷知立、名古屋南名古屋名駅の五ロータリークラブの説明と新設数は277地区と同数で、満足のいくものと話された。伊藤義郎R.I.会長代理からは、ロータリーの深みにはまるなど話され、現況報告として、ロータリアンは地球を守る先兵たれと願っていたが、今回の湾岸戦争への失意と、この大会への希望が述べられた。また、財団への寄与は265地区(京都)について47~48万ドルであり、WCSは、フィリピンの1200万円、タイへの320万円を含め2050万円は日本一であると話された。登録委員会から2565名、信任者委員会から68のクラブ、5555名と報告された。

大会決議では、パウロV.C. コスタ会長のテーマを指示する件、R.I. 会長代理伊藤義郎氏ご夫妻に感謝の件、環境保全のための奉仕活動を推進する件、1990~91年度国際大会に参加協力する件、1989~90年度国際ロータリー第276地区ガバナー盛田和昭君に対する感謝の件、地区大会記念事業の件、ホストクラブ並びに協力団体に関する感謝の件、次年度地区大会開催の件の8議案が可決された。

シンポジウム「はばたけ愛知県D276」では、奥田愛知県副知事、竹田弘太郎名鉄会長、飯島宗一元名古屋大学長、コーディネーターの神野信郎中部ガス社長の四氏からそれぞれの立場で21世紀の愛知県について述べられた。

午後は、宮内康生シンフォニックオーケストラで、電子オルガンの巧みな演奏に場内はすっかり酔わされた。意義ある業績賞、地区優秀クラブ賞、拡大賞などの表彰、講評、次

期ホストクラブ代表あいさつなど無事盛大裡に終了した。

◇お知らせ

5/7(火)の当クラブの例会は、定款第4条第1節により休会いたしますので、お間違いないようお願いいたします。

◇例会変更のお知らせ

名古屋名駅RC 4/24(木)都合により、名鉄グランドホテルにて、PM12:30より

名古屋大須RC 5/2(木)東海学生落語会「うぐいす寄席」の為、4/28(日)大須演芸場にて、PM2:30より

◇例会休会のお知らせ

(ビジターの受付は致しません)

名古屋RC 4/30(火)定款第4条第1節により休会

名古屋名東RC 4/30(火)クラブ休日の為休会

名古屋名南RC 4/30(火)定款第4条第1節により休会

豊山一城北RC 4/30(火)定款第4条第1節により休会

名古屋名駅RC 5/1(水)定款第4条第1節により休会

名古屋名北RC 5/1(水)定款第4条第1節により休会

名古屋南RC 5/1(水)定款第4条第1節により休会

名古屋東南RC 5/2(木)定款第4条第1節により休会

名古屋瑞穂RC 5/2(木)定款第4条第1節により休会

名古屋西RC 5/2(木)定款第4条第1節により休会

◇次回例会(4月23日)

講演 “なつかしの洋食”

日懋調理専門学校教頭

小沢 登 氏 (紹介 浅井君)

◇次々回例会(4月30日)

講演 “植物園の魅力”

東山植物園長

瀬川 正夫 氏 (紹介 水野(民)君)



癌の告知

豊橋RC会長
森 澄

癌の告知……そのI

少し前の朝日新聞の社説に「残された生をどう支えるか」という題で、癌の告知の問題や、末期の医療について述べてありました。

その記事によりますと、日本の場合では、自分が癌になったら知らせしてほしいという医師は80%もいるのに、同じ人物が患者には殆ど告知しないと答えています。

米国では1961年の調査では「告知しない」派は88%でしたが、1977年の調査では「告知する」派が98%と完全に逆転しています。

米国では告知しなかった場合に、医療訴訟で医師が負けるという理由と、ホスピス等が発達していて、告知した後の死の不安と孤独を支える組織が完備しているために、医師達が勇気をもって告知出来るのではないかと思います。更に外国人の場合はキリスト教徒が多いことも告知の傾向を多くしている要因だと思います。

キリスト教徒の場合は、生身の人生はせいぜい数十年であるが、死後の天国で神の身許での生命は永遠であるとの考えで、決して死を怖れていないと云われています。この様な考えを持っているキリスト教徒でさえも、癌を告知した後の反応は、否認→怒り→うつ→受容の段階を経過すると云われます。

ホスピスについては、米国では150の施設があります。日本では1981年に始めて聖隷三方美容院に作られてから現在までに15の施設が出来ていますが、いずれもその規模は小さく、施設数もまだまだ決定的に不足していると云えます。

こんな後一層日本でもこの様なホスピスが增えることを願っていますが、キリスト教徒でない私のような俗人にも、従容として死を迎えられるように導いてもらいたいと願って止みません。

祈るべき神と思えど神も病む 作者不詳

眠れば死相指ほどの灯が沖に点り 星野昌彦

癌の告知……そのII

私の親友でもあり仲人でもあります当クラブ会員の足立さんは、日頃「俺がもし癌になった

ら、俺にだけ隠さずに話してくれ」と云っておられます。彼にだけという意味はよく解りませんが、奥さんを動揺させまいというやさしい心使いなのか、また奥さんに内緒で整理しなければならない事が色々あるためなのか、その真意は聞いたことがありませんが、とに角ちゃんと告知してあげようと思っています。

最近では日本でも癌を告知する傾向に段々なりつつありますが、癌の末期のミゼラブルな様子を数多く診て来た私共医師は、癌を告知されて果して従容として最後の時を迎えることが出来るかどうか不安であります。まして私などは宗教心もなく、死後の世界で安楽に過せるなどと考えてもいませんので、告知されればきっと大いに落ち込んだり、迷ったりすることだろうと思います。

日本の医学教育は、たゞ一筋に病理学的立場からだけの治療や処置のみを教え、患者の心の悩みや際限のない絶望感を患者の側に立って、共に克服してゆくようなことは教えません。

Death Education をもっとしっかりと教えるべきだと思います。

ひと時の延命に明け暮れて、人間の生命の尊厳さに対する思いやりに乏しいと自覚するならば、医師は自らの努力で自分自身の人間性を高め、教養・思想を深めるようにしなければならぬと思います。そして全人格をもって患者に接し、患者の深い悩みを共に解決するという態度がなければなりません。

人の死ほど尊厳なものはありません。日本では死に対しては顔をそむけ、真正面から対決しようとしていないと思います。それは死に直面した患者と共に悩もうとする宗教家や医師がいないためなのか或は日本人全体の宗教的帰依の心の不足なのか解りませんが、とも角癌を告知するという事は、それから暫くの間、医師と患者が共に死を見つめ、その後の安らかな心を握もうとする努力の始まりであると考えなければなりません。

この問題を考えながら、自分自身の思想の貧しさ、読書量の不足などをしみじみと反省している今日此頃であります。

死ねば路傍の石よタンポポなど咲く 柴田正三
眠れねば遠雷のドラム楽しむか 柴田正三

註：豊橋RCの例会での会長スピーチの原稿です。